別所小の窓

さいたま市立大宮別所小学校
令和７年度７月号　児童数　７４５名
TEL　048-667-3633　FAX　048-667-8770

自分で考え　思いを伝えられる子

～地域、保護者の願い「自分を好きになってほしい」～

校長　神田　朋恵

６月に、地域・保護者の方をお招きした会議が２回ありました。一つは学校運営協議会で、もう一つはスクールサポートネットワーク（SSN）全体会です。学校運営協議会では「育みたい子どもの力」を熟議していただき、SSN ではその力を具体的にどのように育んでいくかを協議していただきました。

本校の学校運営協議会は６年目を迎え、委員の入れ替えこそあれ、皆様活発に御意見を発してくださいました。その中で、本校児童のよさや課題、児童に願うことが、次のように出されました。

- 学校でも、地域でも、挨拶できる子が増えている。
- 上級生が下級生によく声をかけ関わってくれている。
- 自分で決めることができない子どもがいる。受け身。指示を待っている。
- 自分の考えていることや思いを言葉にすること、言語化するのが難しい子がいる。
- コミュニケーション力が必要である。友達がいるか。
- 自己肯定感が大切。自分を好きになってほしい。

結果、育みたい力は「自分で考え行動できる子」、「自分の思いを伝えられる子」になりました。

SSN は、地域団体の皆様と学校が協働して、地域総がかりで教育の実現を目指していこうとするものです。昨年度の育みたい力「自分の居場所を作れる子」を受け、他者との関わりを大切に考え、挨拶に力を入れて取り組んでいただいた団体の方が多くいらっしゃいました。上記にあるように、挨拶のできる子が増え、変化が表れていることを感じます。協議では次のような御意見が出されました。

- 子どもが納得できる声かけができているだろうか。
- 子どもたちに寄り添い、声かけをしていく。その中で、約束や規律なども守るようにしていく。
- 感情の言語化が難しい場面が見られることがあるので、子どもたちとの関わりを増やして、表現や語彙を増やしてあげたい。
- 子どもが話す機会を大人が奪っていないだろうか考え、家庭でも考えてもらえるとよい。

『言葉は知的活動の源泉である。大切なその能力はいつ形成されるかといえば「ほぼ１２歳まで」というのが定説だ。言葉は環境の中で受けた刺激によって育まれ、高まる能力とされる。幼い時ほど、環境、つまり大人がどのように子どもと関わるかが重要な要素になる。』（「内外教育」2025.6.20 P8）

貴重な小学生時代、子どもを取り巻く大人が同じように考え行動できたら、何て素敵でしょう。令和８年１月末に、第２回 SSN 全体会があります。各活動をうかがえることを楽しみにしています。

市では、「教える」から「学習者が主体的に学ぶ」授業への転換を目指し、教育改革を進めています。具体的には、学習のポイントを意識した授業が行われ、児童が自ら考え、学びを深めることを重視しています。本校も、「考え（思考力）」「伝えられる（協働）」子を意識して取り組んでまいります。

今月もよろしくお願いいたします。御心配御不明な点がございましたら、どうぞ御相談ください。

今年も三貫清水で蛍を見ました。夜７時半頃でまだ早いかなと思いましたが、池の傍、奥の方に見ることができました。親子連れもいました。豊かな自然、その保全に努める方々、上述の皆様・・・人にも自然にも恵まれた地域に感謝です。